



里山たより

Vol.266

里山クラブ可児

2022年10月1日発行
発行所：里山クラブ可児
発行人：堤 喜治
編集人：柿元 章吾

水プロ | 9月7日 | 参加者：10名

曇りのち晴れ、午後からの暑さには参りました。早く涼しくなってほしいですね。

そんな中、稲のハザ掛け用の杭にするため、森の最深部までカシ採取しに行きました。これでいつでもハザ掛けが作れます。



▲運搬車で切り出したカシの木を搬出

里山ファームでは、里芋が大きく成長しています。出来具合を見るために試掘りをしました。まだ少し、早いようでしたが来月の稲刈り時には程よく採取できるでしょう。



▲里芋掘りの風景 (ジャングルのような)



▲身長を超える里芋の茎

その他、カモシカ除けトラロープ杭の補修。ブルーベリー畑の草取り。蜂の巣駆除などががんばりました。

また、見学者2名あり、親子で森を見学していただきました。



▲収穫された里芋



▲鳥の巣箱にスズメバチの巣

水プロ | 9月14日 | 参加者：13名



▲田んぼの中にハザ掛けに挑戦しました。

今日も天気良好=暑い日となりました。懸案の刈り取った稲を天日で干す「ハザ掛け」の製作・設置を行いました。杭は前回の活動で採取したので、横に通す竹の調達からです。



▲6mの竹を切り出し、運搬です



▲ベテランの指導を受けながら設置

昔から行われてきた伝統的な方法で、ハザ掛けを作ります。稲を掛けた後に、竹がしなり稲が地面につかないよう、支柱は多めにしました。

午後からは、田んぼ周りの草刈。彼岸花が咲き揃う前にしっかりと刈っておきました。



▲本日のメイン収穫はみずみずしい茗荷

例会 | 9月18日 | 参加者：14名+こにわ父兄3名

怪しい天気予報でしたが、またしても天気にも恵まれ予定通り活動できました。



▲ハザ掛けの設置をする河合会員

前回から引き続きハザ掛けをビオトープ池横に1か所追加しました。加治木会員が木を伐りたそうにしていたので武智会員が指摘していた危険木の伐採を一緒に行いました。

また、ビオトープ池に架かる橋の大規模改修が始まりました。まずは、老朽化した手すりの撤去です。



▲手すりが撤去されさっぱりした橋



▲増えてきたアサザの株



▲アサザの花

ビオトープ池では、環境省レッドリスト 2020 で準絶滅危惧種の「アサザ（浅沙）」がようやく花を咲かせました。ブルーベリー畑では、草取りに余念がありません。

栗もそろそろ収穫時期を迎えています。



▲ブルーベリー畑での草取り

水プロ | 9月21日 | 参加者：8名

この日は、爽やかな秋晴れとなりました。日本列島を縦断した超大型台風 14 号。田んぼの被害を心配しましたが幸い殆ど被害はありませんでした。一部の稲の倒れ、水没だけでした、水没した稲の修復をしました。

主な作業はビオトープ池栈橋の修理（腐食柱の交換と床板の準備）です。まだ一部のみ完了です。結構大変な作業となりました。



▲支柱の交換は池の中に入っの作業



▲現場での支柱製作



▲腐食防止塗料の塗布

例会 | 9月25日 | 参加者：20名

本日は、稲刈りイベントに先行して、会員による稲刈りを行いました。秋晴れの棚田に彼岸花が綺麗に映っていました。



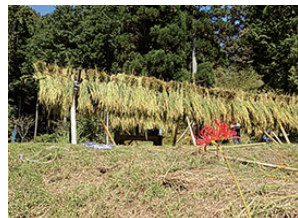


▲若手も女子も稲刈りに多数参加してもらいました

成長の良い2枚の田んぼの稲刈りをすることにしました。この2枚は面積が広いので多数の手をかけても時間がかかり、午前中いっぱいかけてようやく予定の2枚を完了することが出来ました。用意したハザ掛けにすべてピッタリと取まりました。



▲力を合わせてハザ掛けをします



▲昔ながらの棚田の風景ですね



▲ノリの良いのが里山クラブの真骨頂

午後からは、ハザ掛けに覆いをかけたり、トラロープを張って稲刈り完了。また、継続案件のビオトープ栈橋の修理にも取り掛かりました。



▲橋の保全作業



▲完成したハザ掛け、トラロープ付

作業を終えて、工房に帰る途中、ニホンカモシカに遭遇。やっぱり居たんだねキミ！



▲確認した現場の斜面



▲威風堂々としたニホンカモシカ

水プロ | 9月28日 | 参加者：11名

曇り後、晴れたり曇ったり豪雨だったり蒸し暑い1日でした。そんな中、ハザ掛けの増設と移動を行いました。ハザ掛けの増設には、杭となるカシの伐採からです。



▲伐採したカシの搬出



▲杭が安定するように加工します



▲ハザ掛けの設置をする加納会員と堤代表

ニホンカモシカ対策で施したトラロープが有効なのでトラロープ内にハザ掛けを設置しました。これで、次の稲刈りの準備は万端です。

里山ファームで収穫したサツマイモも美味しくいただきました。



▲水洗い後、石焼き芋にします

県民フォーラム | 9月6日

岐阜県林政部森林活用推進課の主催で「第10回緑豊かな清流の国ぎぶづくり県民フォーラム」が岐阜県図書館にて開催されました。

環境基金に寄付をした企業への感謝状贈呈式と、基金を活用した団体の事例発表。そして、日曜朝の報道番組「サンデーモーニング」のコメンテーターとしても活躍されている、岐阜県立森林文化アカデミー学長の涌井氏の講演がありました。

「清流の国ぎぶ森林・環境税」活用事業

第10回 緑豊かな清流の国ぎぶづくり県民フォーラム



開催日時
令和4年
9月6日(火)
13:30~15:30
(13:00開場)
参加無料 定員：140名

会場
岐阜県図書館
多目的ホール
(岐阜市字夜4-2-1)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来場とご協力をお願いします

要綱
13:35~13:40
◎感謝状贈呈式
早稲田 隆弘、山本 隆一、サンデーモーニングの森の国ぎぶ、自然育児こどもの庭、親子、講座、行事、外部団体、協力団体の代表者から、感謝状を贈呈いたします。

活動発表
13:40~14:20
◎基金を活用した団体の活動について
環境基金、環境税を活用して、里山保全の活動や田んぼ周辺の草刈り、稲刈り、ハザ掛けの管理、脱穀準備などについて、各団体から発表いたします。

◎里山漁業協同組合
◎里山クラブ可児
◎「一社一ひのき」の森のようふく ことね産
◎岐阜県立森林文化アカデミーにて
※参加費は無料です

講演
14:25~15:25
「持続的な未来と森林」
講師：造園家 **涌井 茂樹** 氏

東京農業大学農学部造園学科出身、現在、岐阜県立森林文化アカデミー学長。複数の大学で教鞭をとる。愛知県、岐阜県、岐阜県立森林文化アカデミーのアドバイザーを務める。日本造園学会の理事、国土交通大臣賞、長崎県賞、自治体特別功労功労賞受賞など受賞。

主催：岐阜県

「清流の国ぎぶ」

「持続的な未来と森林」



基金活用団体として、当会の他に郡上漁業共同組合、森のようちえん こだぬぎの3団体が発表を行いました。里山クラブ可児からは、堤代表と事務局柿元が参加。

当会の発表の講評として涌井氏から「遷移する自然環境や里山保全がいかに大切なのか、そしてどれだけ労力が必要なのか。同会の活動に敬意を評します」とのお言葉をいただきました。また、講演では「温暖化は人間では制御できない、自然は自然に任せるのが良い。森林のCo2吸収率は最新の研究では、これまで以上の効果があることが分かってきた。森を守ることは、これまで以上に重要な対策だ」とのお話もありました。

私たちの活動が、ほんの少しでもお役に立てるとしたらこれに勝る喜びはありません。



▲満席の会場



▲感謝状を贈呈された企業の代表



▲白い彼岸花が雨に打たれて綺麗

■9月度の我田の森への入山人数

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 里山クラブ可児会員 | 79人 (累積:544人) |
| 2. 自然育児こどもの庭 (親子) | 141人 (累積:801人) |
| 3. 講座 | 0人 (累積:126人) |
| 4. 行事 | 0人 (累積:56人) |
| 5. 外部団体 (オカリナの会 / 見学者) | 4人 (累積:72人) |
| 6. 協力団体 | 0人 (累積:16人) |

■10月度の活動予定

- 例会：16日(日)、23日(日)
林道整備、ピオトープ田んぼの橋補修、芝生広場の保全
- 水プロ：5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水)
田んぼ周辺の草刈り、稲刈り、ハザ掛けの管理、脱穀準備
- 講座：10月8日(土) 自然学校(秋) 稲刈り体験
- 行事：10月23日(日) 会員親睦会 Special ビザ&BBQ

令和4年度の累積入山人数：1,615人

■新規協賛団体：オカリナ 森のハーモニー (活動日：毎月第1水曜日)